

平成30年度事業報告

自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日

公益財団法人 北九州国際技術協力協会

平成30年度事業報告

1. 平成30年度事業報告総括

I. KITA中長期指針

1. KITA財産づくり
2. 「KITAらしさ」と「北九州立地の強み」追求



II. 平成30年度事業計画の達成状況概要

	推進課題	達成状況
1. KITAブランド実現に向けた事業力強化・充実	1) 研修ブランド・・現地ニーズ把握からアウトカムフォローまでの確実な遂行	
	① 研修の更なる充実 a. 研修員ニーズの的確な把握と確実なソリューションの提供 b. 多様かつ専門性の深化への対応と更なる研修先開発・充実	a. 日々の活動の中で着実に実行。北九州市から受託した海外ネットワークを活用した情報発信業務で研修ニーズのアンケートを実施し、送付約2700人中730人から回答を得た。 b. 研修コースの多様化に合わせ、新規研修先の開拓が進んでいる。(2018年度新規研修先:61機関)
	② 新たな研修コース受注に向けた仕組みの構築 a. 研修後の研修員フォローの充実および現地ニーズの確実な把握 b. 新たな研修ニーズの掘り起こしと研修課題抽出の継続推進	a. 上記①テーマの推進過程で合わせて推進 b. 統合水資源管理、分散型汚水処理システム導入・普及という新規研修2件が2年目に入った。
	2) 技術協カブランド・・公益目的事業継続・北九州中小企業のグローバル展開	
① 公益目的事業の継続推進 ② 北九州中小企業のグローバル展開支援と収益事業の検討開始	① 円滑かつ積極的に進行中 ② 北九州市国際ビジネス政策課と連携した2案件は対象分野の変更など諸般の事情により実施できなかった。	

	<p>③ アジア低炭素化センターとの連携</p> <p>④ メンテナンス研修事業の強化・北九州メンテナンス技術研究会(KME)の活用</p>	<p>③ 連携活動が一段と活発化し、協働で取り組んだ『カンボジア国プノンペン郡への草の根技術協力事業』が JICA から採択されるなどアジア低炭素化センター、KITA 双方にとっての効果が顕著になってきている。</p> <p>④ 研究会、セミナーを活発に開催し地場企業若手技術者の保全技術力向上に寄与している。</p>
一層の推進	2. 事業運営効率化の	1) 組織・業務分担の明確化と組織間連携の強化
	① 管理業務効率化とコスト抑制	12月末の派遣社員契約の満了により1名要員減。一部業務の効率化と業務の割付を実施。
	2) システムインフラの有効活用促進と機能充実	日々の改善努力の積み重ねをしており、投資制約のなかで可能な範囲で実行中
透明性・公正性及び情報公開の徹底	3. 公益財団法人運営の確立	1) 保護情報の厳守と情報公開の徹底
	2) 内閣府、北九州市の外部監査対応 関連ドキュメント整備	国の個人情報保護法の厳格な運用に沿って内部管理、対外管理の徹底を推進
	3) 公益財団法人としての日常マナーの確立	10月10日内閣府立入検査が行われた。関連ドキュメントの整備は特に問題なし。一部 KME 関係の HP の整備を要望された。
		内閣府からの通達などを逐一確認しながらマナーの徹底管理を実行中。

2. 研修部事業報告 (JICA 研修事業)

1) 平成30年度研修実施状況

平成30年度の実施状況を前年度と比較して表・1に示す。

表・1 平成30年度と平成29年度の主な研修の諸元比較(実績)

年度	諸元	コース数	研修員合計(人)		開講月数 *1)		参加国数 *2)	
			(総数)	(1コース平均)	(総数)	(1コース平均)	(総数)	(アフリカ)
平成30年度		35	236	6.7	26.4	0.75	81	29
平成29年度		34	313	9.2	25.2	0.74	94	32
差異		1	▲77	▲2.5	1.2	0.01	▲13	▲3
(変化率)		2.9%	-24.6%	-27.2%	4.8%	1.4%	-13.8%	-9.4%

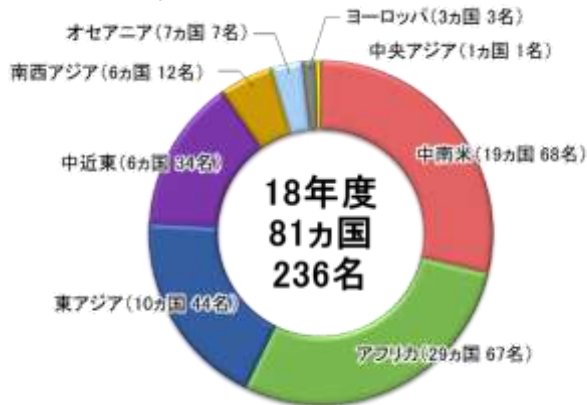
*1) 実質の研修期間(休日および研修前後の準備期間を含まず)

*2) 参加国数は重なりを除く総数

コース数は昨年度に対して1コース増となったが、JICA 資金ショート問題により予算時の38コースから3コース減少した。また、研修員数が大幅に減少(77名)した。

合計開講月数は増加(1.2ヵ月)したが、1コース平均の『開講月数』は昨年度と同じ低水準であった。

【平成30年度:JICA 研修員受け入れ実績/国数及び人数】



平成30年度は81カ国から236名の研修員が研修に参加。

研修員を多数派遣した地域は中南米の68名(28.8%)、次はアフリカの67名(28.4%)であった。

JICA 研修で受け入れた研修員の累計は、7,372名に達した。



2) 平成30年度に実施した研修コース

平成30年度に実施した全研修コースのコース名および実施期間を表・2に示す。
これらコースの中で、平成30年度から始まった新規コースの例を次に紹介する。

(1) 区分 I の No.5

分類	I 環境管理
コース名	イラク産業環境対策における能力開発フェーズ2
特徴	<p>本研修については、従来『大気公害対策』、『水質公害対策』、『廃棄物対策』の三分野を同時に研修テーマに取り上げて実施してきたが、どうしても浅く広くという研修になりがちとなるため、研修をより体系的に実施するために JICA イラクと協議をし、今年度からは一年目は『大気公害対策』、二年目は『水質公害対策』、三年目は『廃棄物対策』というように分野別に研修を実施することにした。また、それぞれの分野において、イラクの実情に即した公害対策が系統的且つ効果的に実施できるようにカリキュラムも更新した。</p> <p>【研修評価】</p> <p>① 今回の研修員は男性5名、女性3名の構成で、イラク環境省とクルディスタン自治区からの派遣であった。</p> <p>研修全体を通して、時間厳守で研修に臨む態度も真面目で細かくメモをとる等、規律正しい態度に好感が持てた。</p> <p>② Action Plan 発表会において、多くの有用情報が得られた報告がなされていたが、これらの情報をどのように自国での具体的対策に繋げるかが課題となる。</p> <p>③ 日本語のテキストはアラビア語に翻訳したが、英語のテキストは研修資金不足の影響を受けてそのまま使用した。教科書はできる限りアラビア語として研修効果を高めたい。</p>

(2) 平成30年度の研修予算段階では区分 I の No.6 に『マレーシア廃棄物・処理運搬』という新規の国別研修が予定されていたが、JICA の資金ショート問題により中止となった。

3) 研修運営に関する成果

(1) KITA研修ブランド化の継続推進

- * 研修員選考会の厳正な実施
- * 全コースに亘って「IAS(Issue Analysis Sheet)」の活用による「Task の抽出」と「ソリューションの提供」
- * 多様かつ専門性の深化に対応するべく、新規研修先の開発・充実

(2) 研修成果の確実なフォローと現地ニーズの把握

- * 研修受講後に帰国した研修員のフォローアップの実施(P.6～9 参照)

表・2 平成30年度 JICA研修コース実施実績 (研修部)

区分	No	コース名	参加国数	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
I 環境 管理	1	廃棄物管理技術(応用・技術編)(A)	5												
	2	廃棄物管理技術(応用・技術編)(B)	1												
	3	コンポスト事業運営(A)	7												
	4	コンポスト事業運営(B)	5												
	5	イラク産業環境対策における能力開発フェーズ2	★												
II 水 資源 ・ 処理	1	下水道システム維持管理(B)	6												
	2	下水道システム維持管理(D)(ベトナム)	1												
	3	水環境行政	4												
	4	ベトナム下水道経営	★												
	5	統合水資源管理(アフガニスタン)	1												
	6	分散型汚水処理システム導入・普及	6												
III 生 産 技 術 ・ 地 場 産 業 活 性 化	1	中南米地域中小企業・地場産業活性化(A)	6												
	2	中南米地域中小企業・地場産業活性化(B)	5												
	3	先進国市場を対象にした輸出振興/マーケティング戦略(B)	3												
	4	先進国市場を対象にした輸出振興/マーケティング戦略(C)	8												
	5	職業訓練の運営・管理と質的強化(C)	6												
	6	日本のモノづくり現場のノウハウ(A)	6												
	7	日本のモノづくり現場のノウハウ(B)(ブラジル)	1												
	8	実践的電気・電子技術者育成	4												
	9	アフリカ地域 起業家育成・中小零細企業活性化(A)	5												
	10	アフリカ地域 起業家育成・中小零細企業活性化(B)	6												
	11	日系研修 輸出振興/マーケティング	2												
	12	タンザニア カイゼンプロジェクト(フェーズ2)	1												
IV 省 ・ 新 エ ネ ル ギ ー	1	エネルギーの高効率利用と省エネの推進(A)	7												
	2	エネルギーの高効率利用と省エネの推進(C)	5												
	3	エネルギーの高効率利用と省エネの推進(B)	7												
	4	再生可能エネルギー導入計画(A)	7												
	5	再生可能エネルギー導入計画(B)	7												
	6	高効率クリーン火力発電の推進	5												
	7	青年研修 マレーシア再生可能エネルギー	1												
	8	青年研修 アフリカ再生可能エネルギー	8												
	9	掘削マネージメント	4												
V 保 健 衛 生 他	1	食品安全行政	8												
	2	持続的な都市開発のための都市経営(A)	9												
	3	持続的な都市開発のための都市経営(B)	7												

コース数合計:35コース

★:国別研修(1か国)

参加国数(重なりを除く):81ヶ国

4) 研修トピックス

(1) KITAホームページで公開した帰国研修員便り(2018 年度実績)

各地域の帰国研修員から寄せられた活動状況を、ホームページ及び KITA ニュースで紹介した。

【帰国研修員から届いた活動状況報告】



年	公開	コースリーダー	国名	帰国研修員名(通称)	研修員活躍の紹介ピックアップ
2019	1月	末田 元	チュニジア	ヒシエム	※次頁参照
2018	11月	三木 義男	チリ	エイホ真由美	※次頁参照
	8月	末田 元	カンボジア	コーク	
	6月	植山 高次	ドミニカ	アナ	

研修員の活躍紹介

■チュニジア

帰国研修員

ヒシエムさん (Mr. SANDLY HICHEM)

コースリーダー: 末田 元

研修コース 下水道システム維持管理(B)

研修時期 2018/1/12～2018/2/23



ヒシエムさんは、工場排水を受け入れている下水処理場に勤務しており、下水道への間接続、規制を守らない工場、オイル・グリースによる管渠閉塞問題等で対策に苦慮しているようでした。「振り返りの時間」に工場廃水を下水処理場につなぎ込むことの問題点を中心に情報提供を行ったりしました。研修全体が満足いく内容になったかどうか心配でしたが、アクションプランの発表では、汚染企業のリスト作成のために簡易水質試験方法の PACK TEST 使用する、下水道施設に与える影響度の度合いで事業所監視優先度を考えるなど、研修で得た知識を十分に利用していました。

今回のレポートを見ると、多くの工場の立ち入り検査を実施している様子が見えかわれます。チーズ製造工場やセメント工場などは、アクションプランでも述べられていた負荷量の大きい工場を優先的に検査する方針の表れかもしれません。工場に排水基準を守らせることは至難の業です。特に、下水管に接続している場合は排水の状況が見えなくなるため指導はより一層困難になります。このため、組織全体で立ち向かう姿勢が是非とも必要です。規制がしっかりしてくると下水道施設の維持管理が容易になり、ひいては水環境改善や保全に寄与することになります。

今後のヒシエムさんの活躍を期待しています。

■チリ

帰国研修員

真由美さん (エイホ常川真由美イグナシア)

コースリーダー: 三木 義男

研修コース 和食ビジネス振興

研修時期 2017/11/13～2017/11/29



2014年3月に実施した【JICA 日系研修の帰国研修員フォローアップ】でブラジルへ訪問した時、「世界的には和食ブームと言っていますが、ブラジルではその実感がありません」との帰国研修員の意見をヒントにして、2016年度から「和食ビジネス振興コース」を開始しました。当コースの2年目、2017年度研修に参加したチリのエイホ真由美さんから自宅パソコンへeメールが届き、「自分の和菓子店を開店した」との朗報が舞い込んできました。彼女のアクションプランでは「2020年に自分の和菓子店を開業する」としていたので、前倒しの実施でもあり、嬉しい気持ちから即刻、お祝いのメール送信をしました。

2017年11月に実施した日系研修「和食ビジネス振興コース」を回想してみますと、研修員は、南米5か国(アルゼンチン、コロンビア、チリ、ブラジル、ペルー)から6名が参加しました。エイホ真由美さんは、紅一点で他の研修員とも和気藹々で非常に研修を楽しんでいました。特に、和菓子に関しては大学卒業後、京都の和菓子店で1年半の住み込み修行をしており、「和菓子の拡大」という明確な目標をもっていったことで研修には大変熱心で、常時、目が輝いていたことを思い出します。今回送られてきた写真を拝見しますと自分の店の名前を「SAKUMU(作夢)」とし、自分の夢を実現したとの気持ちを表したネーミングと推察します。また、和菓子の「和」を意識して、店全体に和を基調としています。入口の暖簾は、富士山と鶴のデザイン、勿論、和菓子も繊細でカラフルであり彼女の細やかな和心を感じます。そして、彼女の笑顔には店を持った満足感に満ち溢れています。私は、彼女からの報告を通して、コースリーダー冥利に尽きますし、日系社会へ多少なりとも寄与できたことの満足感、幸福感を覚える次第です。

(2) 閉講式(研修コース)の感動的な研修員スピーチの紹介

研修コースが満了した最終日には、JICA 九州に於いてアクションプラン発表会と閉講式が行われる。閉講式では参加した研修員を代表してメンバーの一人が謝辞を述べる。

研修員から感動的なスピーチが披露されるケースが多々あり、事例を紹介する。



イラク国別研修「産業環境対策における能力開発フェーズ2」
研修コースの閉講式(研修員と記念撮影)

【研修員の感動的なスピーチ】

研修コースの事例紹介

イラク国別研修「産業環境対策における能力開発フェーズ2」

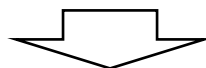
コースリーダー: 粉 康則

イラク都市部の環境はイラク戦争の終結後、急速な工業化の進展により未処理の排気ガス、排水及び廃棄物に加え自動車排ガスなどで環境悪化が著しく、環境と調和した工業発展のための方策が喫緊の課題となっています。この研修は、イラクの環境省、クルド地域政府環境省、地方行政区環境機関の職員が、日本の産業公害の対応状況を学び、自国の産業環境対策への適用を図るための能力向上を目的として実施しています。



KITA 研修では、既に2014年度から2016年度までの3年間で大気・水質・廃棄物の分野統合研修延べ37名の研修員が受講しています。2018年度は引き続きフェーズ2として専門分野ごとに大気汚染対策の研修委託を受けて8/31～9/21に実施しました。この研修における到達目標は、大気に関する①産業公害防止の総合的政策と効果的な対策、②汚染原因物質と対策技術の理解習得、③環境品質モニタリング技術の理解、④実現可能なアクションプランの作成となっています。

本コースのカリキュラム構成は、北九州市・福岡県の行政、北九州地域企業の協力を得て①日本の法制度、②排ガス、粉塵及び臭気の処理対策技術、③セメント、化学及び発電並びに窯業などの工場における環境対策とモニタリングの実態、④排ガス測定演習等、をアラビア語の通訳で実施しました。今回の研修員8名は、講義・工場見学など熱心に研修し、ほぼ全てのカリキュラムが有益な内容であったと評価しており、将来、イラクの環境改善に大きな成果が期待されます。



閉講式 イラク国別研修「産業環境対策における能力開発フェーズ2」
感動的な研修員スピーチ（ファーディルさんの謝辞）



研修員を代表してお礼の言葉を述べさせてもらえることに感謝します。幼い頃からこの歳になるまで、私たちは、日本は別の惑星だと聞かされてきました。私も、参加した研修員の皆さんも、私の国の全ての人間がそうであるように、この惑星を見ることが夢でした。

そして JICA と KITA のおかげで、私たちはこの美しい惑星を訪れ、目の当たりにして、素敵な日々を過ごすことができました。皆様方の招聘によって、私たちの夢のひとつが叶ったのです。感謝と愛情を込めたあらゆる言葉を、研修コースの成功に尽力してくださった JICA と KITA の皆様

方にお贈りしたいと思います。

私たちが目にしたのは、この国が如何に戦争と悲劇と破壊を経験してきたかということです。しかし、皆さんは祖国への愛と人間への愛ゆえに、それらの全てを乗り越えてこられました。そして本当に、最も美しい惑星を築き上げたのです。私たちが目にしたのは、皆さんが如何にして子供たちの祖国への愛や善き行いを育んでおられるかということです。私は自分の祖国を思うと悲しい気持ちになります。私たちの国では子供が一歳になると、拳銃のおもちゃを買い与えて、悪いことを教え込んでいるのです…。

皆さんから私たちは、成功ということの価値や意味を学びました。皆さんから私たちは、如何に懸命に誠実に働き、生活するかということも学びました。皆様方は本当に、感謝と敬意に値する方々です。私たちはいくら感謝を申し上げても、言い尽くせないという思いです。アリガトウ

ファーディルさんは、日本での当研修を大変喜んでおり、挨拶の終盤では、平和で美しい中で暮らす日本の子供たちに対して、自国の子供たちがピストルを撃つ遊びをしていることを思い出し、感極まり、しばし言葉が出ず、出席者一同が大変感銘を受けました。

3. 技術協力部事業報告

当初事業計画の内、予算規模の大きい計画案件の実行開始時期が大幅に遅れたことにより、実績は事業計画を大幅に下回る結果となった。

概略は下記の通り。

- ▶ 北九州市産業経済局国際ビジネス政策課と連携して実行を予定していた「中小企業海外展開支援」は、諸般の事情により実施できなかった。
- ▶ 委託研修は、計画通りの案件4件を受注・実行した。
- ▶ 技術指導・技術協力も、2件の計画案件を実行できたが、対カンボジア国プノンペン都草の根技術協力は、先方とのプロジェクト活動内容合意に10ヵ月近くを要し、大幅に実行開始が遅れた。
- ▶ コンサルティング事業については、「楽しい(株)殿の JICA 案件化調査」を計画通りに完遂した。引き続き申請した「普及・実証事業」も採択を受け、現在契約に向けた作業中である。
- ▶ また、事業計画では「JICA 中小企業海外展開支援事業」に応募予定としていた4件(上記楽しい(株)殿案件を含む)中3件の採択を達成した。
- ▶ 一方で、年度初期から実行着手予定であった「ダバオ市廃棄物発電施設整備計画」はダバオ市側の計画着手承認が大幅に遅れ、ほぼ1年遅れとなった。
- ▶ 「北九州メンテナンス技術研究会」の活動は講師陣の若返りを図るとともに、新規セミナーを1件開設し活性化に努めた。

以下に平成30年度の活動要旨を報告する。

1) 中小企業海外展開支援

対象国・地域	関係箇所	実績
ベトナム	北九州市国際 ビジネス政策課 JETRO 北九州	●南部地域(ホーチミン市、バリアブントウ州等)での生産委託先の開拓および商品販路拡大の支援を実施予定であったが、対象が食品分野に変更となったため、KITA は受託を辞退した。
ベトナム	北九州市国際 ビジネス政策課 ハイフォン市	●ハイフォン市と締結した MOU では、ハイフォン市の企業経営者が来北してビジネス交流を行う予定であったが、参加者不足のためか見送りとなった。

2) 委託研修

研修名	関係箇所	実績
自治体職員 受入れ研修	上下水道局	●左記受入れ研修員に関する事務処理を実施。 (カンボジア/プノンペン都職員1名) [発注元: 上下水道局海外事業課]
環境調査 研修所研修	環境省環境調査 研修所 北九州市環境国際 戦略課	●下記2件の委託研修を実施した。 (カリキュラム企画～運営まで一括) ・廃棄物・リサイクル専攻別研修:11/6-9 4日間 (国内自治体職員40名)

	福岡県環境部/ 環境政策課	・国際環境協力基本研修:2/4-8 5日間 (国内自治体職員22名) [発注元:環境省環境調査研修所]
ハイフォン市企業 経営者向け経営 塾訪日研修	ベトナム日本人材 協力センター (VJCC)	●左記経営塾の総仕上げである訪日研修の一部(北九州での実施分)を分担実施した。 [発注元:リロ・パナソニック(株)]
カンボジア人企業 家向け訪日環境 ビジネス研修	カンボジア日本 人材協力センター (CJCC)	●JICA/カンボジア日本人材協力センターのビジネス人材育成・拠点機能強化プロジェクトの一環として実施された研修を受託・実施した。 [発注元:リロ・パナソニック(株)]

3) 技術指導・技術支援

対象国・内容	実 績
フィリピン 廃棄物管理指導	●「ダバオ市における廃棄物管理能力向上指導事業(JICA 草の根技術協力事業)」に対し、技術専門家を派遣し現地指導を実施した。 2017年度～2019年度の3年間かけて指導する計画で、2018年度は7回の現地訪問・指導を実施した。 [発注元:(公財)北九州市環境整備協会]
カンボジア 廃棄物管理指導	●「プノンペン都における廃棄物管理能力向上指導事業(JICA 草の根技術協力事業)」が採択され、実行に向けての協議を開始したが、JICAとの事業契約締結の前提となるプノンペン都との事業内容合意議事録(MM)締結に時間を要し、1月末ようやく契約を完了して事業を開始した。 ・申請元:北九州市アジア低炭素化センター ・事業実施団体:(公財)北九州国際技術協力協会 事業期間:3年間、事業予算:約6,000万円 [発注元:国際協力機構(JICA)]

4) コンサルティング事業

案件名	支援企業	実 績
マレーシア国における食品廃棄物の堆肥化およびリサイクルループの構築に係る案件化調査 (マレーシア)	楽しい(株)	●左記テーマでJICAの2017年度第1回中小企業海外展開支援事業/案件化調査に応募し、採択された。 今年度は、昨年度に引き続き2回の現地調査を実施、計画通りに事業を推進し、完了報告書を提出した。 事業期間:2017. 11～2019. 2 [発注元:楽しい(株)]

マレーシア国における食品廃棄物の堆肥化およびリサイクルループの構築普及・実証事業 (マレーシア)	楽しい(株)	<p>●左記テーマで JICA の2018年度第2回中小企業海外展開支援事業/普及・実証事業に応募し、採択された。</p> <p>6月契約、7月事業開始を目指して、現在マレーシアとの業務実施内容協議議事録の締結折衝、業務実行計画書作成に取り組んでいる。</p>
高濃度有機産業排水を対象とした高性能排水処理システムの普及・実証事業 (ベトナム)	(株)ジェー・フィ ルズ	<p>●左記テーマで JICA の2018年度第1回中小企業海外展開支援事業/普及・実証事業に応募し、採択された。</p> <p>以後、ハイフォン市との事業実施内容協議議事録の締結、業務実行計画書作成を経て、3月19日にJICAとの契約締結を完了した。平成31年4月から事業を開始する。</p>
コンクリート用再生骨材製造システムによる建設廃材の再資源化・資源循環ループの確立に係る案件化調査 (タイ)	星尊(有)	<p>●左記テーマで JICA の2018年度第2回中小企業海外展開支援事業/案件化調査に応募し、採択された。</p> <p>7月契約、8月事業開始を目指して、現在業務実行計画書作成に取り組んでいる。</p>
交通安全対策に向けた日本式運転教習法導入による優良自動車学校群の構築に係る案件化調査 (ベトナム)	(株)おんが自動車学校	<p>●左記テーマで JICA の2018年度第2回中小企業海外展開支援事業/案件化調査に応募したが、不採択となった。</p>
ダバオ市廃棄物発電施設整備計画無償資金援助 (フィリピン)	クラウンエイジェンツ・ジャパン(株) 外務省	<p>●日本が対フィリピン国無償資金援助として実行する左記事業に、自治体系コンサルタントとして参加する。</p> <p>具体的には、調達代理機関となるクラウンエイジェンツ・ジャパン(株)からの受注となる。</p> <p>2018年3月20日に日比交換公文が締結され、直ちにプロジェクトが開始される予定であったが、調達代理委託契約の締結承認が大幅に遅れ(2019年3月28日)、1年遅れの事業開始になる。</p> <p>事業期間:2019. 4~2023. 9(予定) [発注元:クラウンエイジェンツ・ジャパン(株)]</p>

5)その他

案件名	関係箇所	実績
北九州メンテナンス 技術研究会(KME) 活動	会員会社(48社) 個人(1名)	<ul style="list-style-type: none"> ●年度計画通り、以下の活動を実施した。 ・予知保全研究部会(年間6回):21名(15社) ・技術セミナー <ul style="list-style-type: none"> 疲労・強度 腐食・防食 溶接技術 トライボロジー 制御技術 設備診断技術(電気編) 実践的油圧技術 設備診断技術(機械編) 表面改質技術 (今年度新規開講) <div style="text-align: right; margin-right: 20px;"> 受講者:126名 (昨年度:118名) </div> <ul style="list-style-type: none"> ●総会および講演会(KIGSとの共催)の実施。 ●本年度の新規入会1社。

4. 国際親善交流事業報告

1) 親善交流プログラム

JICA から受託した国際研修に参加している研修員を対象とした国際親善事業は、研修目的の達成に加えて、日本の伝統や文化を理解してもらい、ひいては研修員に自国と日本との友好の懸け橋になってもらう上で大きな役割を担っている。平成30年度も、関係者各位の理解と協力を得ながら、様々な国際親善交流プログラムを実施した。

延べ参加人数 : 69名 参加国数 : 46ヶ国

(1) ホームビジット

研修員を登録ホストファミリーの家庭に招き、日常生活の中でお互いの伝統や文化、生活習慣等に触れる機会を設け、国際親善を図る日帰りの交流事業として実施した。

- ・年間実施回数 : 4回 【平成30/8/18(土)、9/8(土)、11/10(土)、平成31/3/30(土)】
- ・参加研修員数 : 21ヶ国 / 21名
- ・参加ホストファミリー数 : 20家庭

(2) “西日本工業倶楽部の夕べ”

西日本工業倶楽部での施設見学や夕食会とあわせ、裏千家淡交会北九州支部の伊達雅子先生はじめ支部の皆様のご協力を得て、邸内で茶道を体験するプログラムを実施した。

- ・年間実施回数 : 1回 【平成31/2/1(金)】
- ・参加研修員数 : 13ヶ国 / 15名

(3) 地元企業交流会

新日鐵住金ステンレス(株)八幡製造所様のご厚意により、同社若手社員と研修員との交流会として実施しているプログラムで、平成30年度も下記の通りすしパーティを開催した。

- ・実施日 : 2回 【平成30/9/11(火)、平成31/2/7(木)】
- ・参加研修員数 : 11ヶ国 / 13名

(4) 地元大学生との交流会

北九州市立大学地域共生教育センター国際交流プロジェクトメンバーの学生に、研修員に日本文化や北九州近郊の歴史に触れてもらうプログラムを企画いただき、実施した。

実施日	内容	参加研修員数	参加国	学生参加数
平成30/7/7(土)	到津の森公園見学	7名	7ヶ国	8名
平成30/7/28(土)	戸畑祇園見学	3名	3ヶ国	5名
平成30/10/20(土)	いのちの旅博物館見学	5名	3ヶ国	6名
平成30/11/17(土)	河内藤園紅葉見学	5名	5ヶ国	8名

2) 英文生活情報誌(「Let's Enjoy Kitakyushu!」)の配付

(公財)吉川育英会のご協力を得て、毎年改訂発行している生活情報冊子(英文)「Let's Enjoy Kitakyushu!」を研修員全員に配付した。この冊子は、北九州滞在中に研修員が快適にそして便利に生活するための情報冊子であり、見慣れぬ土地に不安を抱く研修員にとっては貴重な情報源となっている。

3) 記念写真CD・メッセージフォト作成・贈呈

4) グリーティング電子メール送付

平成25年度に完成した情報データベースシステムを利用して、グリーティングメールを一斉送信した。また、閉講式終了後に、集合写真送付とともに、帰国後の状況報告を依頼するメールを送信した。

グリーティングメール送信件数	:	3, 829通
北九州市委託情報発信業務	:	2, 745通
閉講式写真送付メール送信件数	:	215通
日系研修への勧誘メール	:	22通

5. 広報活動

1) KITA ニュース

平成30年度は、年4回(日本語版:7月と1月、英語版:4月と10月)発行した。

2) ホームページ(HP)

最新記事の掲載・更新などを適宜行い、市民、KITA 関係者へ KITA の紹介、活動内容などを紹介した。平成30年度は更新システム改良により、より頻繁に掲載情報を更新できるようにした。

6. 平成30年度事業報告附属明細書

平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和元年5月

公益財団法人 北九州国際技術協力協会